



第4期宮前区区民会議 準備部会 次第



日時：平成24年6月12日(火)18:15~20:00

場所：宮前保健福祉センター1階 集団教育ホール

進行：委員長・副委員長

- | | | | |
|----|----------------|-------------|----------|
| 1 | 本日の議事概要の説明 | 18:15~18:20 | |
| 2 | 議事 | | |
| 1) | 審議テーマの絞込み・選定方法 | 18:20~18:25 | 2ページ |
| 2) | 課題分類たたき台 | 18:25~18:35 | 3ページ |
| 3) | 課題分類 | 18:35~19:50 | 16~25ページ |

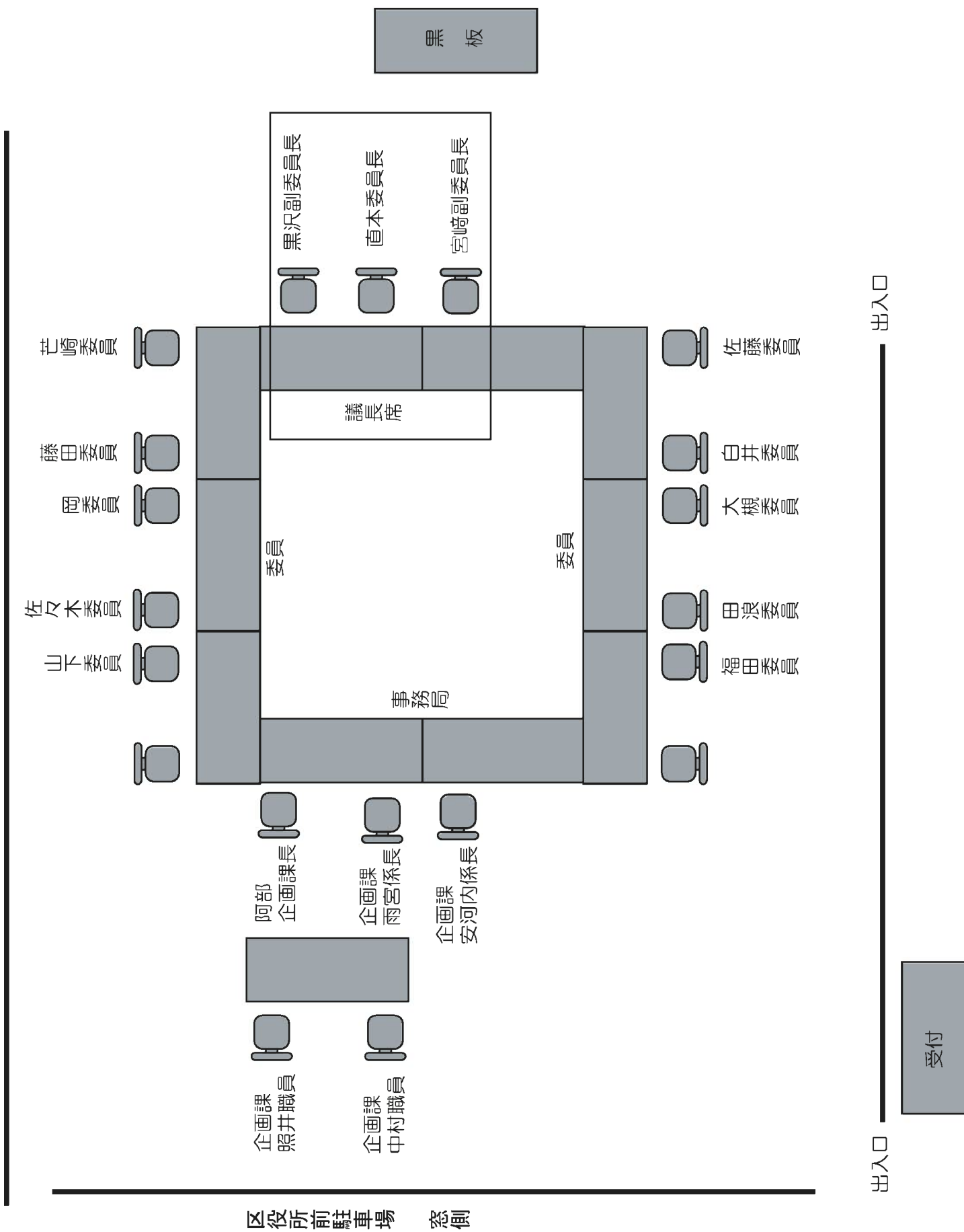
【議事終了】

- | | | |
|---|-------------|-------------|
| 3 | その他諸連絡 | 19:50~20:00 |
| | ・各自活動紹介 | |
| | ・区民会議だよりの作成 | |
| | ・意見交換会開催 | |

【配布資料】

- | | | |
|----------|-------------------|-------|
| 1ページ | 座席表 | |
| 2ページ | 課題の選定方法 | |
| 3ページ | 2部会への分類(案) | |
| 4~15ページ | 参考：川崎市民アンケート結果 | |
| 16~20ページ | v.02 地域課題アンケートまとめ | A 3資料 |
| 21~25ページ | v.03 地域課題アンケートまとめ | A 3資料 |
- ⇒v.02を3ページの分類(案)に並べ替えたもの

第4期宮前区区民会議・準備部会



審議課題の選定方法（案）

1 課題解決に向けた視点（☆高い ○普通 △低い）

● 緊急性・必要性

速やかに解決を図らなければ区民の生活に重大な支障が生じることが容易に予測できる課題か。

● 実現性

区民会議で審議して、明らかに解決策が見出せ、具体的な提案ができるか。どれだけ実際に解決が見込めるか。

● 公益性・公平性（実施の際に配慮すればクリアできる項目）

特定の地域・グループ・個人だけでなく、多くの区民に対して必需的なサービスとなるか。

2 優先度の視点

A：区民会議で最優先に解決策を審議する。

審議結果を尊重して具体的解決を図る。

B：通常の区役所業務や地域での工夫などで対応する事項。

積極的に解決に向けた取組を行う。

C：A及びBを解決した後、対応可能であれば解決を図る。

ただし、通常の区役所業務などの中で速やかな対応が可能な場合には対応する。

D：区民会議の審議対象としてはなじまない課題。

すでに行政や地域で課題解決に向けた取組がされている課題。

たたき案1 宮前区ブランド創造

提案された課題

- 7: デザイン性を高める
- 11: 福祉ゾーンをつくる
- 14: 健康増進の企画実施
- 15: スポーツ環境の充実
- 16: 坂道のまちづくり
- 18: 高齢者による学習支援
- 19: 家庭教育支援
- 20: 定年後の生きがい探し
- 21: 花と緑のまちづくり
- 26: 地産地消の推進
- 27: 起業家塾の開催等
- 29: 観光大使、親善大使

テーマ候補絞込

区に愛着を持ってもらえるよう、区の魅力を色々なツールを用いてPRしていく。
 「○○のまち 宮前区」
 例: デザイン、緑、福祉、教育、商業、産業、農、スポーツ、坂道、健康、シニアパワーなど

提案の具体的な内容を検討

たたき案2 宮前区一体化

提案された課題

- 10: 交通不便地域の対応
- 4: 防災の啓発
- 28: 友好都市との交流
- 30: 新住民に対する広報
- 32: 区ホームページの充実
- 33: 回覧物の数

テーマ候補絞込

交通の面で一体化

地域情報共有で一体化

提案の具体的な内容を検討

- 1: 子どもの安全確保
- 12: 救急搬送時の諸連絡
- 13: 孤独死・孤立死問題
- 17: 子育て親の地域意識
- 24: 廃棄物の減量化
- 34: ボランティアサービスのデータベース化
- 35: 参加できるお祭り
- 36: 世代間交流
- 37: 3~40代の地域参加
- 38: 町内会・子ども会活性化

地域の絆を醸成していく

平成23年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成23年10月28日(金)～11月17日(木) ◆有効回収数 1,500 標本 ◆有効回収率 50.0%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 区民会議について 	<ul style="list-style-type: none"> 6 生物多様性について 7 がん検診について 8 川崎市の都市交通について 9 川崎市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	593	39.5
2 女性	869	57.9
(無回答)	38	2.5
合計	1,500	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	231	15.4
2 幸区	153	10.2
3 中原区	257	17.1
4 高津区	219	14.6
5 宮前区	247	16.5
6 多摩区	208	13.9
7 麻生区	176	11.7
(無回答)	9	0.6
合計	1,500	100.0

3 性/年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	133	8.9	51	8.6	82	9.4	-	-
2 30歳代	305	20.3	104	17.5	200	23.0	1	2.6
3 40歳代	331	22.1	135	22.8	195	22.4	1	2.6
4 50歳代	273	18.2	102	17.2	170	19.6	1	2.6
5 60歳代	239	15.9	106	17.9	131	15.1	2	5.3
6 70歳以上	185	12.3	95	16.0	89	10.2	1	2.6
(無回答)	34	2.3	-	-	2	0.2	32	84.2
合計	1,500	100.0	593	100.0	869	100.0	38	100.0

5 区民会議について

5-1 区民会議の認知状況

◎<知っている>が19.4%

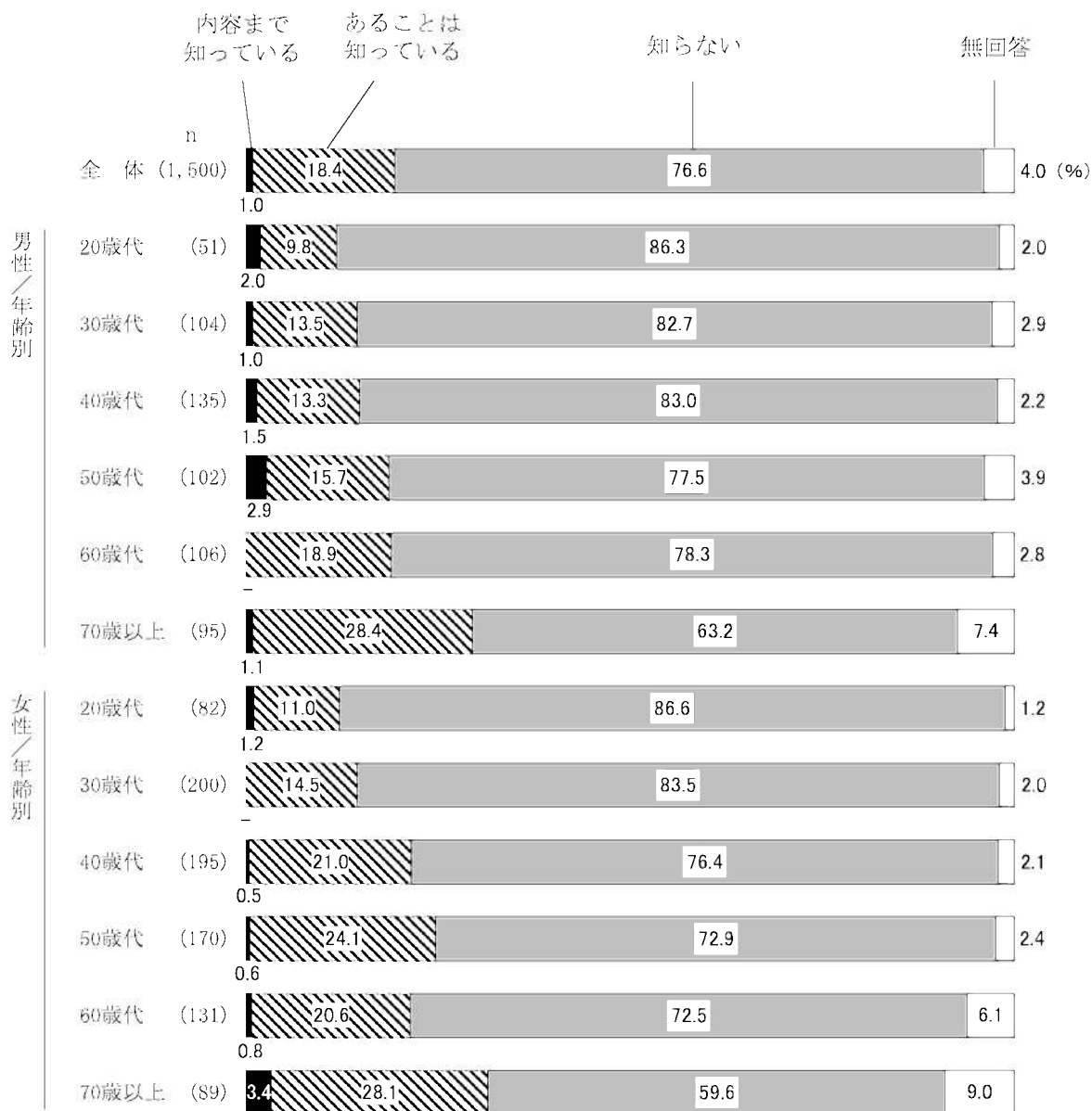
問12 あなたは、お住まいの区の区民会議について知っていますか。(○は1つだけ)

図表5-1 区民会議の認知状況



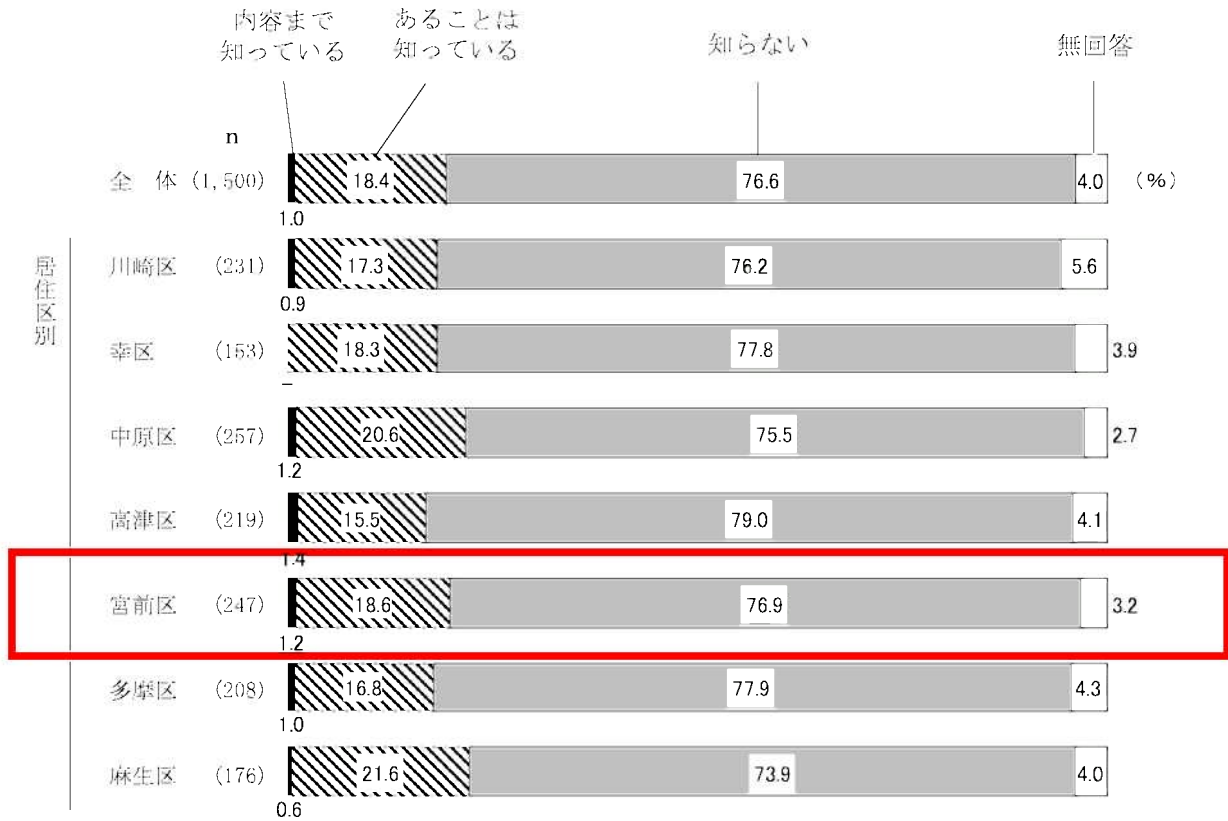
区民会議の認知状況は、「内容まで知っている」(1.0%)と「あることは知っている」(18.4%)をあわせたと知っている>が19.4%となっている。一方、「知らない」(76.6%)は7割台半ばとなっている。(図表5-1)

図表5-2 区民会議の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、<知っている>は、男女ともに70歳以上(男性:29.5%、女性:31.5%)が最も多く、約3割となっている。一方、「知らない」は、男女ともに20歳代(男性:86.3%、女性:86.6%)が8割台半ばと最も多くなっている。(図表5-2)

図表5-3 区民会議の認知状況(居住区別)



居住区別では、<知っている>は、麻生区(22.2%)、中原区(21.8%)が2割台と多くっており、高津区(16.9%)が最も少なくなっている。(図表5-3)

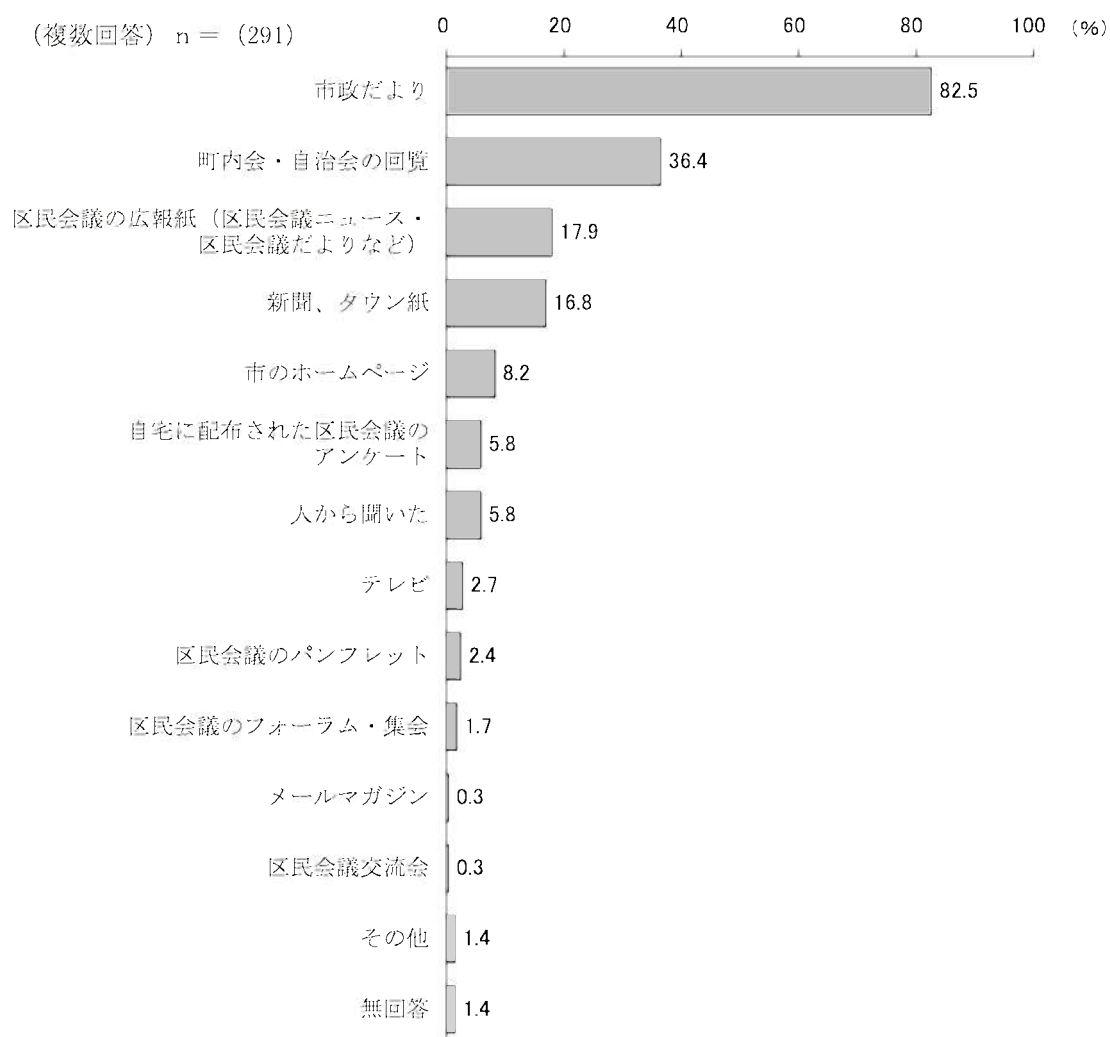
5-2 区民会議の認知媒体

◎「市政だより」が82.5%

問12-1 (問12で「1. 内容まで知っている」「2. あることは知っている」のいずれかに答えた方にかがいます。)

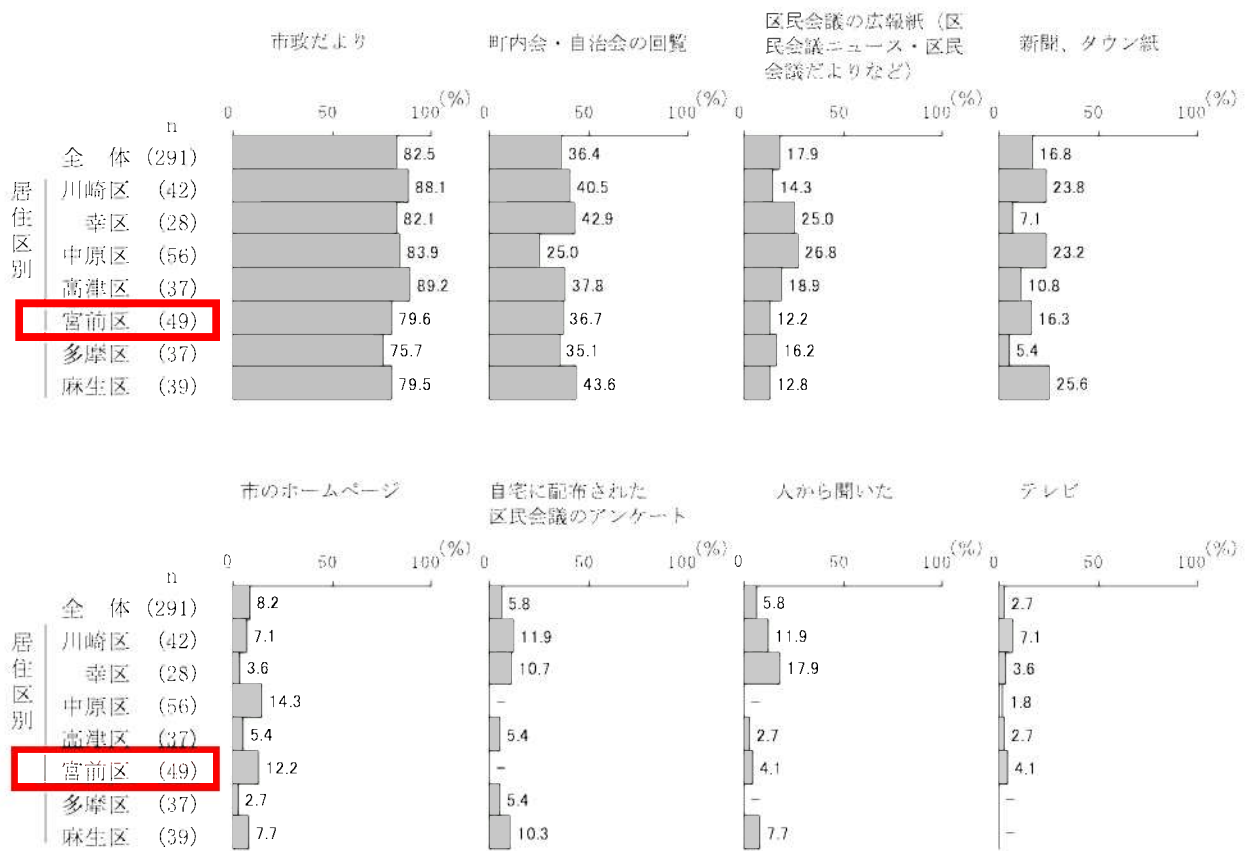
区民会議をどのようにして知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-4 区民会議の認知媒体



区民会議の認知媒体は、「市政だより」(82.5%)が8割台と最も多くなっている。次いで、「町内会・自治会の回覧」(36.4%)、「区民会議の広報紙(区民会議ニュース・区民会議だよりなど)」(17.9%)、「新聞、タウン紙」(16.8%)の順となっている。(図表5-4)

図表5-5 区民会議の認知媒体（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「市政だより」は、高津区（89.2%）、川崎区（88.1%）が8割台後半と多くなっている。「町内会・自治会の回覧」は、麻生区（43.6%）が最も多くなっている。「区民会議の広報紙（区民会議ニュース・区民会議だよりなど）」は、中原区（26.8%）、幸区（25.0%）が多くなっている。「新聞、タウン紙」は、麻生区（25.6%）、川崎区（23.8%）、中原区（23.2%）が2割台と多くなっている。（図表5-5）

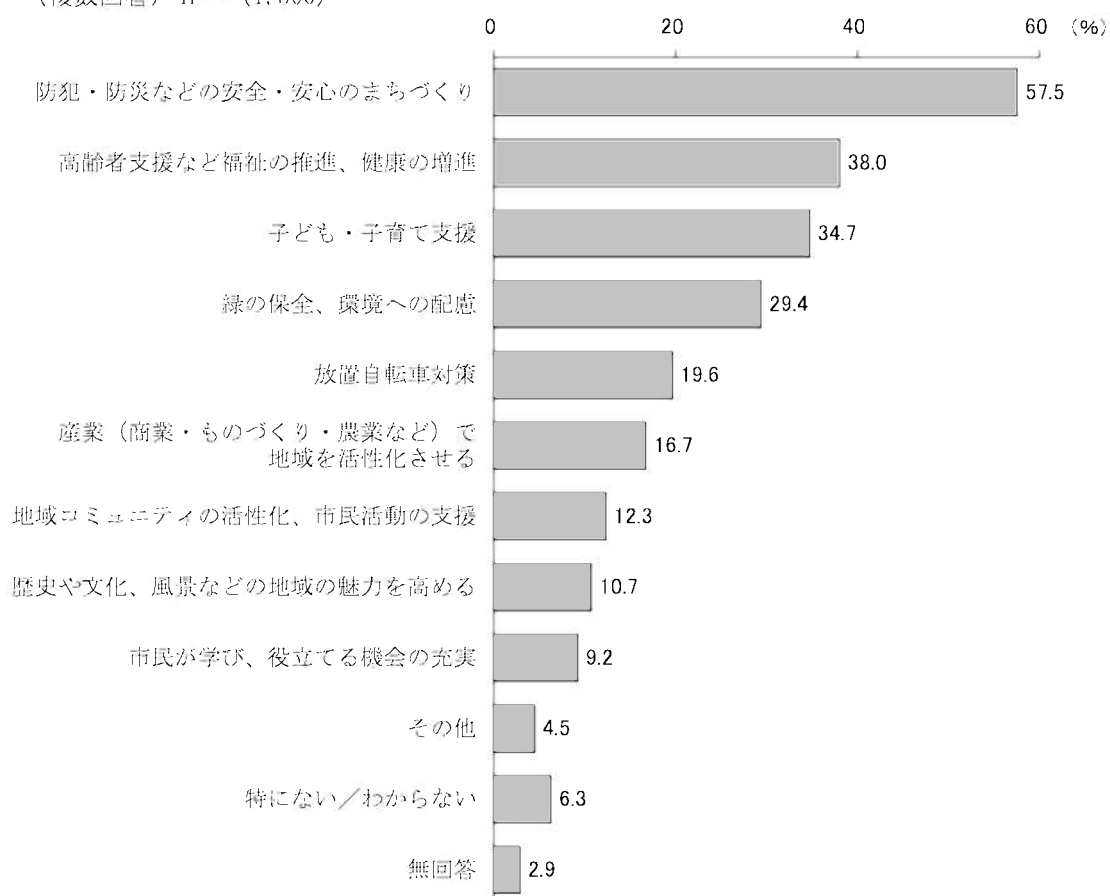
5-3 区民会議で取り上げてほしい地域の課題

◎「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」が57.5%

問13 区民会議で、どのような地域の課題を取り上げてほしいですか。(〇は3つまで)

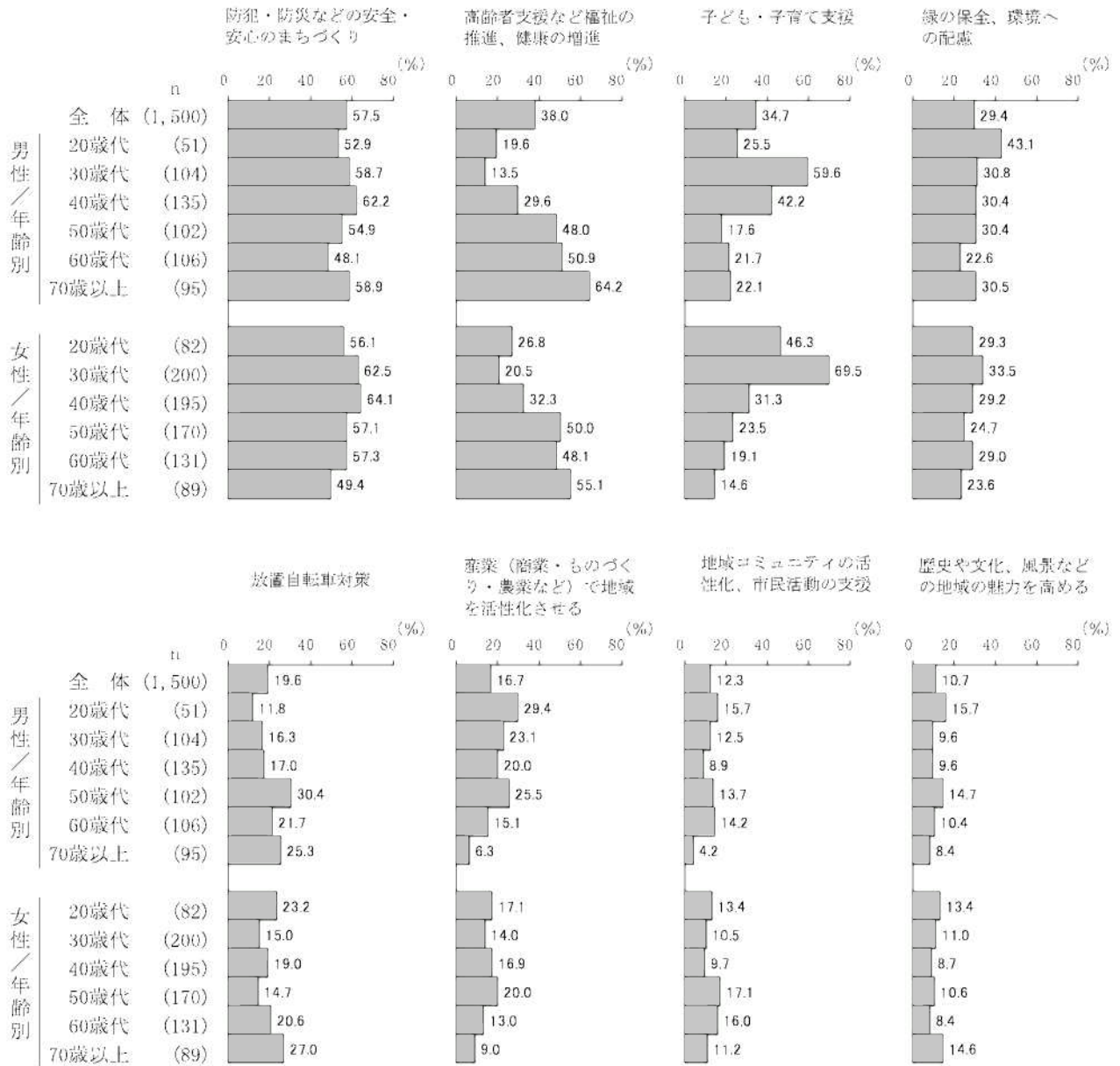
図表5-6 区民会議で取り上げてほしい地域の課題

(複数回答) n = (1,500)



区民会議で取り上げてほしい地域の課題は、「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」(57.5%)が5割台後半と最も多くなっている。次いで、「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」(38.0%)、「子ども・子育て支援」(34.7%)、「緑の保全、環境への配慮」(29.4%)の順となっている。(図表5-6)

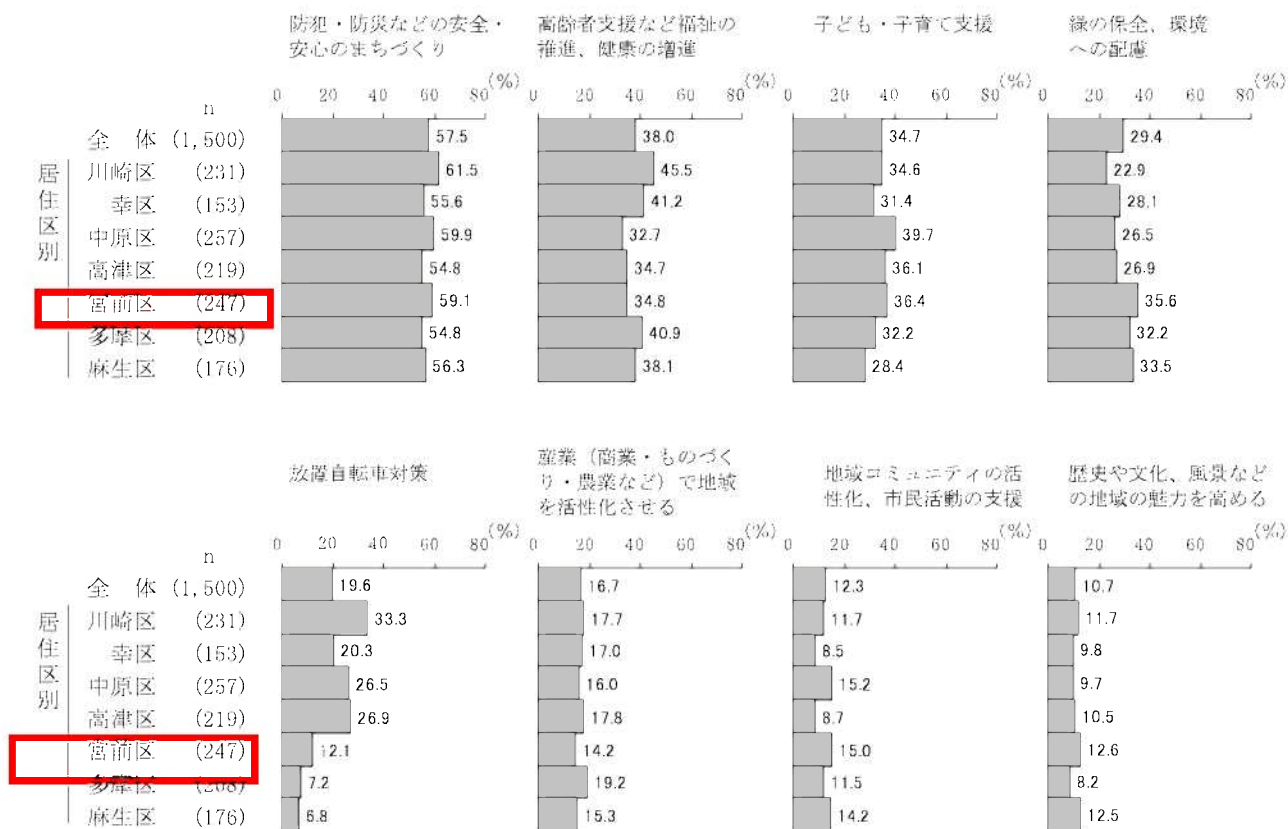
図表5-7 区民会議で取り上げてほしい地域の課題（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」は、男女ともに40歳代（男性：62.2%、女性：64.1%）が最も多くなっている。「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」は、男女ともに50歳代以上の年代が多くなっている。「子ども・子育て支援」は男女ともに30歳代（男性：59.6%、女性：69.5%）が最も多くなっている。「緑の保全、環境への配慮」は、男性20歳代（43.1%）が4割台と最も多くなっている。（図表5-7）

(第2回アンケート)

図表5-8 区民会議で取り上げてほしい地域の課題（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」は、川崎区（61.5%）が6割台と最も多くなっている。「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」は、川崎区（45.5%）が4割台半ばと最も多くなっている。「子ども・子育て支援」は、中原区（39.7%）が最も多くなっている。「緑の保全、環境への配慮」は、宮前区（35.6%）が最も多くなっている。（図表5-8）

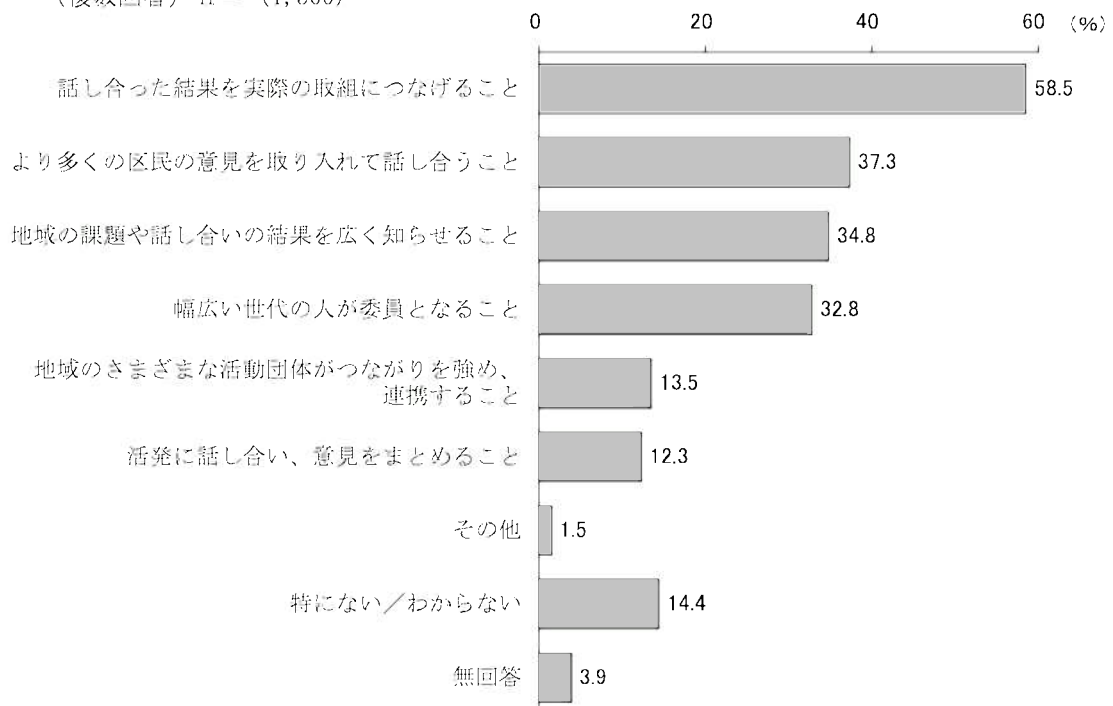
5-4 区民会議に期待していること

◎「話し合った結果を実際の実組につなげること」が58.5%

問14 区民会議に対して期待していることは何ですか。(〇は3つまで)

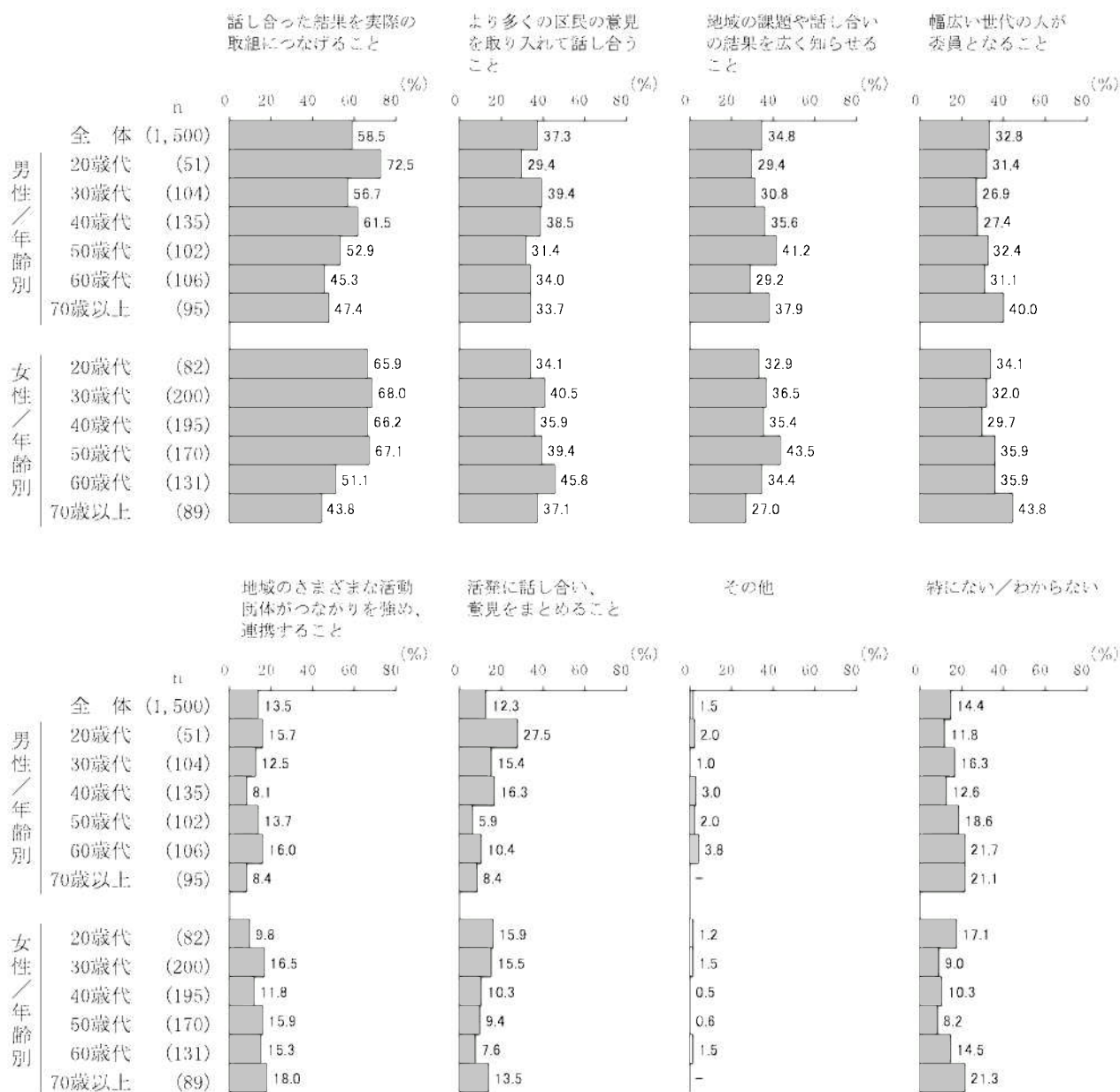
図表5-9 区民会議に期待していること

(複数回答) n = (1,500)



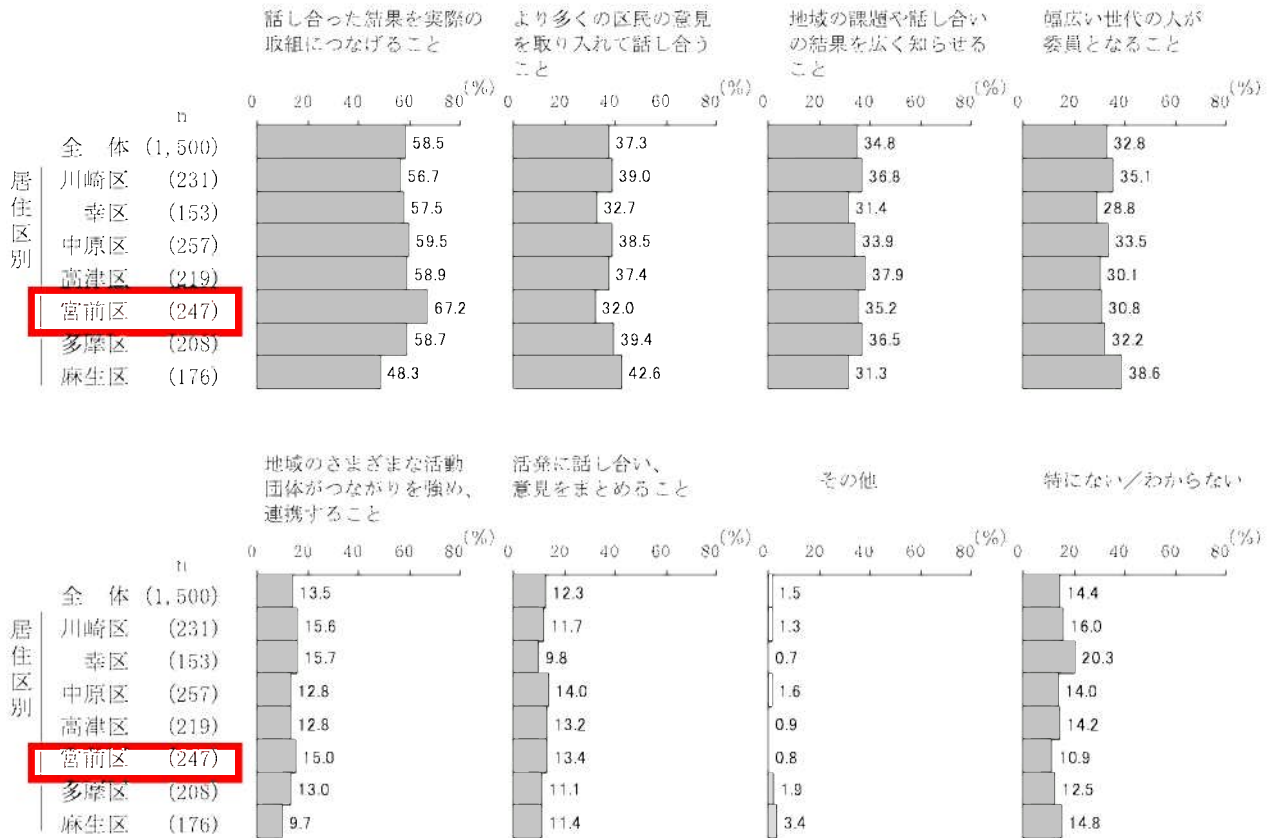
区民会議に期待していることは、「話し合った結果を実際の実組につなげること」(58.5%)が5割台後半と最も多くなっている。次いで、「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」(37.3%)、「地域の課題や話し合いの結果を広く知らせること」(34.8%)、「幅広い世代の人が委員となること」(32.8%)の順となっている。(図表5-9)

図表5-10 区民会議に期待していること (性/年齢別)



性/年齢別では、「話し合った結果を実際の取組につなげること」は、男性では20歳代(72.5%)が最も多く、女性では20歳代から50歳代が6割台後半と多くなっている。「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」は、男性では30歳代(39.4%)、40歳代(38.5%)が3割台後半と多くなっており、女性では60歳代(45.8%)が4割台半ばと最も多くなっている。「地域の課題や話し合いの結果を広く知らせること」は男女ともに50歳代(男性:41.2%、女性:43.5%)が最も多くなっている。「幅広い世代の人が委員となること」は男女ともに70歳以上(男性:40.0%、女性:43.8%)が最も多くなっている。(図表5-10)

図表5-11 区民会議に期待していること（居住区別）



居住区別では、「話し合った結果を実際の取組につなげること」は、宮前区（67.2%）が最も多くなっている。「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」は、麻生区（42.6%）が最も多くなっている。「幅広い世代の人が委員となること」は麻生区（38.6%）が最も多くなっている。（図表5-11）

【v.02 地域課題把握アンケート まとめ】

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況	優先度	緊急性・必要性	乗換性	分類案	備考
① （安全で快適に暮らすまちづくり 防犯・防災・住環境・交通）	1	防犯	平井	子どもの安全確保。夜間の防犯の矛盾点	見守りのパトロールがあるが、子どもたちは警戒しすぎて地域での気軽な挨拶ができない。学校があまりにも閉鎖されている面もある。	解決策・解決への取組	現在までの区などの取組状況		○	○	つながり	
	2		平井	駅前には交番を	宮崎駅前交番がない。防犯安全確保のための、交番をふやす。						その他	解決策の提案が県への要望にとどまるもの
	3	防災 (工口?福祉?)	大槻	災害に強い地域の実現	電力不足対応。災害時の病院・葉の対応。一人住まいの老人対応。	①太陽光発電パネルを公共施設・森林・川岸等に設置→売電②病院・葉局データを電子化し、クラウド化③災害時の緊急物流対応	●一部有 【総務課・市民館】 ①区役所・アリーナにはパネル設置済 ②【所管なし】 ③計画作成中				その他	①順次実施中 ②民間事業者が医療機関向け販売中 ③区防災計画作成中
	4			防災の啓発	地震等災害に備える。避難路・場所の確認。区民各自3日分の水・食糧等を備蓄する。	ヘルメット・ライト・ラジオ等の用意。 ・防災フェアの開催、会場に行く足の確保。市バスの乗り継ぎができないか？	●有 【危機管理担当】 各家庭の備蓄については防災ニュース等で啓発。フェアは今年から土曜日開催(3月9日)にすることで啓発効果増を算定も。防災推進員現在161名			◎		つながり情報
	5	住環境	山下	防災の指針作成	宮前区での防災の特徴。津波なし、溢水、木密地域少ない。したがって、各家庭での対応、備蓄倉庫、帰宅困難者などが主眼	区としての防災指針。または対策立案。	●有 【危機管理担当】 現在作成中				その他	現在、区での地域防災計画を見直している
	6		芒崎	トンネルの清掃	通学路でもある梶ヶ谷の尻手黒川道路につながるトンネル内がはとの糞等で汚れが目立ち、不衛生。安心して気持ちよく通れるように。	地域住民の協力。どのように清掃を行うか、清掃用具等にかかる費用はどうか。相談をしながら実行できれば。	●有 【危機管理担当】 (H19年)第2梶ヶ谷トンネルアート製作。照明設備の増設(H20年)第3梶ヶ谷トンネルアート製作(H21年以降)毎年補修。梶はJRとの調整も必要				その他	毎年10万程、トンネル補修費用が計上されている
	7	交通	宮崎	デザイン性を高める	周囲を見渡せば、街中の各種建造物はデザイン的な視点から調和の取れていない箇所が多すぎる。中小企業の子ラシ等もあまりデザインがよくない	デザインの役割は、人の心を癒し、夢や、楽しさ、感動を与える。街づくりの基本は、先ず、デザイン力の向上と思いますが、駅前平野前の交番の外観デザインは地域の活力を低下していると思われる。	【企画課 安河内係長に相談】 最善法に基づき集約計画を地域全域にかけている。周辺環境の景観や意匠について指導している。		△	◎	ブランド	
	8		本郷	ラブホテル建設	川崎 I C おりて清水台方面に向かう処、旧道路公園事務所横の空地にラブホテル建設の噂あり	うわさを確認して本当なら阻止の動きにつなげたい					その他	現時点では建設の可能性が低いことがわかった
	9	交通	佐藤	危険道路。通学児童の安全確保。	稚原小学校児童の登校の場合 道幅：4m (側溝55cm含む) 距離：11.5m (車道・歩道の区別なし) 時間常交通量：児童55名、自動車40台、バイク10数台	3名にて見張りをやっているが、どう指導すれば安全に通学できるか。	●有 【区危機管理担当】 上下線に寄券看板を設置 【道路公園センター・警察】 目立つ白線を敷設。注意喚起				その他	当該箇所のみ課題としては所管課が対応中
	10		直本 藤田 山下	交通不便地域の対応	交通網の整備あるいは交通不便な地域に住んでいる方の足の確保。公共施設への足が不便。(初山・有馬・五所塚など) 田園都市線・東名高速で東西分断。区内一体感に問題あり。	近隣相互の協力、地域支援。バス・タクシーなどの乗り物の整備。コミュニティバスの導入。公共施設へのバス路線。都市計画道路未整備部分の整備促進				○	○	つながり交通

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況	優先度	緊急性・必要性	実現性	分類案	備考
② （地域福祉・健康） 幸せな暮らしを支えるまちづくり	11		木田	福祉ゾーンをつくる	宮前区には市営住宅などの公営住宅が多い。福祉的対応のできる施設を呼び込み安心してらせる「まち」にする。	病気・薬・連絡先等の覚書を冷蔵庫に共通のルールをつくる	現在所管なし 東京都大田区で実践している旨は把握（高齢者支援課）		△	○	ブランド	
	12		大槻	救急搬送時の諸連絡	一人暮らしの老人							
	13	地域福祉	太田 福田	孤独死・孤立死問題	宮前区は人の入れ替わりの早いところのため、お互いに交流のないまま過ごしている。隣近所の交流のある地域を目指したい。地域の絆をお互いに自覚するように。	地域でのイベントを考える、または集まれる場を設立し、定期的に開く。町内会を中心に老人会、社会福祉協議会・民生委員等が連携し行政と一体になって見守りの組織作りに取り組んだらどうか。	●有り 【地域保健福祉・企画】 23年度から見守り事業を実施。高齢化が進む公営住宅を廻りを見守り活動や居場所づくりにつなげるための取組を町内会、老人会・民生委員等と連携し実施している。25年度は王子ル地区を3地区に拡大、26年度以降は町内会、自治会へ見守り要約を積極的に紹介し、事業を推進していく予定。		◎	○	つながり	
	14		大村	健康増進の企画実施	①医療保険料の増大 年間37兆円にも達する ②生活習慣病の増加 ③介護者の増加と家庭問題 ④医薬品に依存する生活	①quality of lifeの向上をめざす②週6回の公園体操の実施③積極的体毒の排出（デトックス）	●有り 【地域保健福祉課】 区内において現在44箇所の公園体操が立ち上がっている。また、宮前区ストレッチ体操「風の中で」等の体操も行っている。		△	○	ブランド	
	15	健康 （魅力）	森山	スポーツ指導環境の充実	生涯学習としてスポーツを文科省から推奨され、教育委員会等から早くそういう活動団体をつくりなさいよという奨励がある。やと宮前区に菅生地区の生涯スポーツ団体が立ち上がった。	せっかくスポーツセンターができたが、スポーツセンターは入札で簡単にスタッフがかわる。文科省が進めている生涯学習のスポーツ的な要素をどなたでも受け入れるような立場の計画企画者が居座れない。そういう安定的な、長期的な教育環境、指導環境を整えてもらえればと思う	●有 【地域保健課】 指定管理の契約は5年 【スポーツ室】 市としてのスポーツ指針を作成中		◎	○	ブランド	
③ （子育て・生涯学習・人権） 子育て・心を育てるまちづくり	16		浦野	坂道のまちづくり	第3期においては冊子製作の語までしかできなかったという印象。活用や健康づくりまで話を広げていくことができれば。	坂道マップの活用。区民の方々が坂に親しみをもち環境づくり。あわせて、それらの下地に必要な健康づくり、体力づくり。	●有 【企画課】 9月頃にマップを作成予定 フロントレールから健康づくりの事業提案をしていただいている		◎	◎	ブランド	
	17		田浪	子育て親の地域意識醸成	宮前区は子育てグループが多く若いお母さん達が積極的に地域活動に参加してくれている。しかし、こどもの手が離れてくると地域から遠ざかってしまう人も多い。	子育て時期に仲間作りだけでなく、地域で自分自身を生かそうという意識を持ってもらえるような講座・講習会を開催するなど	●子ども支援室 子育て⇒他の地域活動への声かけは無いが、子育て事業の次の担い手として活動してもらえよう働きかけている。地域に戻らない要因として働きに出ているという方も考えられる。		△	◎	つながり	
	18	子育て	岡	高齢者による学習支援	市内7区それぞれが区の特徴を出し、住民に住んでもらうことを考えなければならぬ。宮前区は30代・40代の若い層の転入出が激しいと言われているが、「教育レベルが高い」とも言われている。30代・40代のファミリー層に、「安心して教育が任せられる、住みよいまち」であることをPR。教育は短期間で成果が出るものではないが、「子育てに理解のあるまち」「児童を安心して預ける諸施策が充実しているまち」を前面に打ち出すことで転入が促進され、転出後も自分が育ったまち宮前区に帰ってくるということができるよう、地域のお年寄りに協力依頼する支援策。	既にヤングママを対象に「悩み相談」、「子育て支援」、両親共働きの方々には「わくわくプラザ」等が活動していますが、これらのさらなる支援のため、地域のお年寄り（老人クラブ、子供のお相手が出来る高齢者等）に働きかけ、子育て支援、学業支援の手助けをしてもらう地域ぐるみの人間形成型支援の実施。	●有 【子ども支援室】 ●神原小…普生地域教育会議（算数教室） ●向丘中学校・士橋小学校は学習支援で地域の方が頻に入っている。シニア活用も学習支援は世代間の教育方針差があらわれ、教育委員会的にハードルが高いか？ ●宮前中などは理系の親御さんが理科授業をするケースもあるそう。⇒常設でなく個別の特別講座 ●宮前区は七区で一番児童（0から14歳）が多い		△	○	ブランド	

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況	優先度	緊急性・必要性	実現性	分類案	備考
④ （自然・公園・エコ） 環境を守り自然と調和したまちづくり	19		大槻	家庭教育支援 (学力以外の 教育支援)	子どもを取り巻く環境は核家族化・孤立化・共稼ぎが進み、社会全体で家庭教育支援が必要。この観点から地域による親の家庭教育支援や子どもへの家庭教育支援が重要であり、新たな取り組みが必要。「わくわくブラザ」や「こども文化センター」では不十分。	異世代交流。「親育ち・子ども支援地域」ミニコミュニティ構築。拠点は誰でも歩いている距離で。そこに行くど誰かしら自分の興味を引く。すなわち地域の小学校。親の持つていないスキル・体験を通じて。未就学児の親へも対応。学校支援センターとも連携。(地域人材・シニア人材)	●有 【こども支援室】 ●不登校児などをサポートすること もサポート南野川がこれに近い。 ●老人いこいの家とこども文化センターが併設されていないところの方 か世代間交流ができていないという 話もある(菅生こぶん)		△	○	ブランド	
	20	生涯学習	大村	定年後の生き がい探し	①ボスト川崎部民②回塊世代の増加③シニア世代の活性化	①生涯学習の充実②ボランティア活動への参加③高齢者大学の創設④シニアよる相談の利用促進	●有 【市民館・企画課】 地域活動入門編・実習編と毎年講座を開催している。生涯学習財団関係でかわさき市民アカデミーがある。 【地域振興課】 ・花とみどりの事業で花苗支援イベントにより各団体において苗販売を行っているところもある 【環境減量推進課】 ・ポイ捨て、通料の実績は無し。路上喫煙とともにキャンペーン 【企画課 安河内さんに相談】 マンダリンについて 一定規模以上の建業や開発行為については法確または市が定める条例で公園緑地の設置や敷地内緑化を行うことになっている。		○	◎	ブランド	
	21	自然	黒沢 岡 平井	花と緑 (ポイ捨て)	花とみどりのまちづくり、四季折々気持ちの良い散歩道づくり。緑化活動団体を集めイベントを開催。マンシヨンにも緑地の確保ができるような対策。	●花・鉢物等の配布 ●公共の場にごみを捨てないことが重要 ●区民にその旨を絶えず広報する ・「緑化週間」、「地域での花祭り」 ・「区」ポイ捨て、通料の実績は無し。路上喫煙とともにキャンペーン 【企画課 安河内さんに相談】 マンダリンについて 一定規模以上の建業や開発行為については法確または市が定める条例で公園緑地の設置や敷地内緑化を行うことになっている。			△	◎	ブランド	
	22		本郷	平瀬川の水質	地下水路を通じて月に3回ほど汚水が流入している。発生を追及し、やめさせたい。	地下水路の要所にのぞき窓を設け、市民が確認できるようにしてほしい。	【環境対策課】 近隣住民や事業所に啓発リーフレットを配布。「汚水等があれば相談ください」という連絡の案内も 行っている。				その他	関係局への要望にとどまる
	23	公園	白井	土橋7丁目公園トイレについて	公園にトイレが無いということで不便を感じる人が多い。老人会主催のバスも発着するので、ぜひとの声があります。	「緑化運動」に取り組んでいる団体の区内表彰。(活動されている団体の励みにもなる)					その他	関係局への要望にとどまる
	24	工口	福田	廃棄物の減量 化	普通ごみについて一般住民の関心が無過ぎるよ うな気がする。減量化についてまちぐるみで取り組んだらどうか。	一般住民はごみは無料で捨てられると思っ ている。廃棄物には処理費用に相当な税金が 使われていることや分別収集のことをPRし、啓蒙してはどうか	●有 【環境減量推進課】 ふれあい出張講座(町内会等の希望により)、出前ごみスクール(小学4年)、学校への副読本提供(小学4年)、等で啓発活動。		○	○	つながり	

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区との取組状況	優先度	緊急性・必要性	実現性	分類案	備考
⑤ （産業力にあふれ躍動するまちづくり 振興）	25		大槻	農家の育成	・分散農地の効率化	①分散農地にセンサーを設置し、かんきよ うを集中管理して効率化をはかる					その他	関係局・機関への 要望にとどまる
	26	農業	大槻 副	農産物産地 消の推進	宮前区まちづくり協議会で「農産物直売所マッ プ」が作られた。まちづくり協議会と連動して地 産地消を強力に推進出来ないものか。目的は、地 域の住民に①区内にも元気な農家があることの紹 介②地産地消を勤めることで地域住民と農業従事 者のWinWinの関係を構築する。最終目的は、区 内の住民に宮前区は生活しやすいor暮らしやすい まちであることのPRや認知度アップをはかるこ と。野菜類高騰の折、住民、生産者双方にメリッ トが期待出来るものと考えます。	●年2回（春・秋）に区内生産者一堂に集 まってもらい、展示販売会（収穫祭）を実 施。●出展生産者ブースを設け、自作の生 産物を展示販売。●農産物直売所マップの 配布。家庭菜園の作り方講習。採れた野菜 での料理教室等々。●展示会の場所は北部 市場、JAセレン川崎、宮前区役所広場、 宮崎台公園etc・・・。	【地域振興課】 【経】農業振興課 ・直売所マップ提示 ・区内が向丘地区・宮前地区でそれ ぞれ開催している。年に1回市と Aとで展示販売会。昨年が宮前。 ・教室は農業振興課の市民農園 【宮前市民館】 ・野菜の料理はC級グルメ	△	◎		ブランド	
	27	産業	宮崎 大槻 佐々木	●起業家塾 ●大学連携 ●地 場産業活性化	地域経済の繁栄は産業の振興を常に実践すること と云われている。多様かつ発展性に富んだベン チャー企業や、将来を嘱望される多様な中小企業 の出現を願っている。将来の人口減に対応するた めにも、地場産業の発展により働ける場所をつく ることが求められる。中堅企業の育成。	●小学校、中学校における課外活動の一環 として区在住の企業家OB等による起業家 塾の美現が望まれる●宮前区の大学や近郊 大学と中堅企業を連携させ、イノベーション をはかる●サービス等、特に小さな規模 でも成り立つような産業をつなぐことによ り、活性化をはかる。	【商業観光課】 対象は小・中学校ではないが、商 人デビュー塾などの講座は開催し ている。空き店舗活用支援なども	△	○		ブランド	
28			黒沢	友好都市との 交流	例年通り佐久市との交流を続ける	より多くの参加者が増える様努力する。	【地域振興課】 区民祭りでの物産招致。りんご オーナー普及キャラ「さくらん」。夏 の交流キャンプ、27名(定員40)	△	○		つながり: 情報	
29			宮崎	観光大使、親 善大使の組織 化の提案	特に「宮前都民」と呼ばれる、普段は宮前区書で 仕事や活動をしている新住民に、地元にごんなも のがあるのか知ってもらい、ひいては地域への愛 着の醸成と定住化を図る。	宮前区の特徴、存在などを地球規模にて発 信するために、宮前区とゆかりのある県 外、海外在住者を組織化して生活の中での 宮前区のPR役を担う。年に数回頻度、レ ポート提出も行う。この得られた情報をどの ように活用するかなども検討したい。	【地域振興課】観光協会 少し色は濃うが、30周年関係でゆ かりのある有名人とのコネクション はできつつある。	△	○		ブランド	
30		魅力	佐々木	新住民に対す る地域の広報	川崎は「おんがくのまち」と言いながら宮前区内 にはしるべき建造物が無い。また、大会を開催 できるような競技場が無い。	例えば「宮前マラソン」等の市民マラソン を行い、順位を競うのではなく、宮前区内 で知ってほしい場所などを通過ポイントと して設置し、同時にその場所の広報などを 行う。	【地域振興課】 8月、小学生向けに区内の名所を まわるスタンプラリーを実施。	○	○		つながり: 情報	
31			山下	「ハコモノ」 または「競技 場」の建設	川崎は「おんがくのまち」と言いながら宮前区内 にはしるべき建造物が無い。また、大会を開催 できるような競技場が無い。	適当な用地の発掘・確保が必要					その他	要望にとどまる

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況	優先度	緊急性・必要性	実現性	分類案	備考
⑦ （区役所と協働による市民自治のまちづくり 区役所サービス・地域コミュニティ）	32	区役所サービス	黒沢	区役所ホームページの充実	広報誌だけでは足りないのでは、インターネットによる情報発信を充実させる必要がある。	・フェイスブックの利用 ・掲載情報の充実 ・無料パソコン教室の開催（インターネット利用者を増やすため）	【企画課】 10月に区HP一新。 【市民館】 アリーナに15台PCがあり、無料の教室を実施している。市民館にはwin98が10台あり、教室開催も可能。 【企画課】 一括配送		○	◎	つながり： 情報	
	33		平井	多すぎる回覧物	多すぎる、情報の統一化		【企画課】 一括配送		◎	○	つながり： 情報	
	34		大槻	地域サービスのネットによる検索	宮前区は転入者が多いので各種のサービスを見つけて出せるように。ボランティアの人々も登録してもらおう。	公的サービス以外のボランティア的なサービスを検索できるシステム作り。	【企画課】 市民活動団体の紹介は「みやまえぼーたろう」や「まちづくり協議会」のHPで、経歴系では公園緑地協会がボランティアスタッフ登録の制度もある。		○	○	つながり	
	35		藤田	みんなが参加できるお祭り	みんなが参加できる祭りが少ない。（区民祭・ふれあいフェスタ）参加のみでなく、手伝いできる体制をつくる。まちづくりへ積極的に手伝っている人がまだ少ない。	必ずしも大きな祭りでなくてもよい。小さな祭りの積み重ね（例：盆踊り）区内での共通意識が持てるもの。ウォーキング大会なども考えられる。	【地域振興課】		○	○	つながり	
	36	地域コミュニティ	田浪	世代間交流	世代間交流する機会が少ない世代を交流することで新たな発見があったり、地域の見方が変わったりすることがある。そんな機会を増やしていきたい。	既にうえるかむクラスで民生委員さん子育て中のお母さん連との交流など、気軽に交流できるようなネット作り。ボランティアグループなど特定の目的を持った団体を經由して交流を深めることもできるいか。	【こども支援室】 青年こぶんの例など、水沢森人の会やのがわはあなどそれぞれの団体レベルでは交流がある。		△	○	つながり	
	37		田浪	「地域」意識の向上…3～40代	時間が無くもともと生活に追われる30～40歳の人たちに地域の大切さを意識してもらいたい	「楽しい」「お得な」「楽できる」などをキーワードに地域に参加するきっかけづくりをする。商店街とのタイアップ企画など。	【企画課】 地域参加をうながす⇒ 情報サポーターズの冊子？		△	○	つながり	
	38		平井 山下 直本	地域の町内会。子ども会の加入率の減少	転入・転出が多く、また、一人暮らし世帯も増えている。地域で、お互い助け合いのできる触れ合いのあるまちづくり。子どもたちに、良いふるさとづくり。町内会、子ども会の魅力ある活動の工夫と情報交換。新住民の地域に対する意識が低い。	・町内会、自治会の統一の指針を作成する。好事例を紹介する。防災対策を前面にだす。（今回の委員は自治会関係者が多い）	【地域振興課】 区の加入率65.1%。市は65.4%。転入者向けに訪問をしている会もある。お遊戯会に赴き、住宅販売の際に町会加入もセットで入れるよう仕組をつけている。宮前地区は今年記念誌を発行するPR。多摩区ではのほりやポスターを製作し加入促進のPR。		◎	○	つながり	
	39		平井	1期2期3期に行った提言の、見守りと、検討	せっかく3期にわたって色々提言しているのに、それを振り返ってみるのが大切と思います。3期に提言した情報サポーター、城道のことも続けていきたい。		【企画課】		○	◎	その他	区民会審での取り扱いが他とは異なる

【v.03 地域課題把握アンケート まとめ】

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	実現性	備考
宮前区ブランド創造	7	住環境	宮崎	デザイン性を高める	周囲を見渡せば、街中の各種建造物はデザイン的な視点から調和が取れていない箇所が多すぎる。中小企業のチラシ等もあまりデザインがよくない	デザインの役割は、人の心を癒し、夢や楽しさ、感動を与える。街づくりの基本は先ず、デザイン力の向上だと思います。宮前駅前の交番の外観デザインは地域の活力を低下していると思われる。	【企画課 安河内係長に相談】 最期法に基づく景観計画を地域全域にかけられている。周辺環境の景観や意匠について指導している。	△	◎		
	11	地域福祉	水田	福祉ゾーンをつくる	宮前区には市営住宅などの公営住宅が多い。福祉的対応のできる施設を呼び込み安心してくらせる「まち」にする。			△	○		
	14	健康 (魅力)	大村	健康増進の企画実施	①医療保険料の増大 年間37兆円にも達する ②生活習慣病の増加 ③介護者の増加と家庭問題 ④医薬品に依存する生活	①quality of lifeの向上をめざす②週6回の公園体操の実施③積極的体毒の排出(デトックス)	●有 【地域保健課】 区内において現在42箇所の公園体操が立ち上がっている。また、宮前区ストリートダンスチームの体操も行っている。	△	○		
	15	健康 (魅力)	森山	スポーツ指導環境の充実	生涯学習としてスポーツを文科省から推奨され、教育委員会等から早くもそういう活動団体をつくりなさいよという奨励がある。やと宮前区に管生地区の生涯スポーツ団体が立ち上がった。	せっかくスポーツセンターができたが、スポーツセンターは入札で簡単にスタッフが代わる。文科省が進めている生涯学習のスポーツ要素を誰でも受け入れるような立場の計画企画者が居座れない。安定的・長期的な教育環境・指導環境を整えてもらえればと思う	●有 【地域振興課】 指定管理の契約は5年	◎	○		
	16	健康 (魅力)	浦野	坂道のまちづくり	第3期においては冊子製作の語までしかできなかったという印象。活用や健康づくりまで話を広げていくことができれば。	坂道マップの活用。区民の方々が坂に親しみをもち環境づくり。あわせて、それらの下地に必要な健康づくり、体カづくり。	●有 【企画課】 9月頃にマップを作成予定 フロントテーブルから健康づくりでの事業提案をしていただいている	◎	◎		
	18	子育て	岡	高齢者による学習支援	市内7区それぞれが区の特徴を出し、住民に住んでもらうことを考えなければならぬ。宮前区は30代・40代の若い層の転入出が激しいと言われているが、「教育レベルが高い」とも言われている。30代・40代のファミリー層に、「安心して教育が任せられる、住みよいまち」であることをPR。教育は短期間で成果が出るものではないが、「子育てに理解のあるまち」「児童を安心して預ける諸施策が充実しているまち」を前面に打ち出すことで転入が促進され、転出後も自分が育ったまち宮前区に帰ってくるということができれば、地域のお年寄りに協力依頼する支援策。	既にヤングママを対象に「悩み相談」、 「子育て支援」、両親共働きの方々には「わくわくブラザ」等が活動していますが、これからのさらなる支援のため、地域のお年寄り（老人クラブ、子供のお相手が出る来る高齢者等）に働きかけ、子育て支援、学業支援の手助けをしてもらう地域ぐるみの人間形成型支援の実施。	●有 【こども支援室】 ●瑞原小…宮生地域教育会議(算数教室) ●向丘中学校・土橋小学校は学習支援で地域の方が既に入っている。シニア活用の学習支援は世代間の教育方針差があらわれ、教育委員会的にハードルが高いか？ ●宮前中などでは理系の親御さんが理科授業をするケースもあるそう。⇒常設でなく個別の特別講座 ●宮前区は七区で一番児童(0から14歳)が多い	△	○		

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区分などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	実現性	備考
宮前区ブランド創造 続き	19	子育て	大槻	家庭教育支援 (学力以外の教育支援)	子どもを取り巻く環境は核家族化・孤立化・共稼ぎが進み、社会全体で家庭教育支援が必要。この観点から地域による親の家庭教育支援や子どもへの家庭教育支援が重要であり、新たな取り組みが必要。「わくわくブラザ」や「こども文化センター」では不十分。	異世代交流。「親育ち・子ども支援地域」ミニコミュニティ構築。拠点は誰でも歩いている距離で。そこに行く誰かしら自分の興味を引く。すなわち地域の小学校。親の持っているスキル・体験を通じて。未就学児の親へも対応。学校支援センターとも連携。(地域人材・シニア人材)	●有 【こども支援室】 ●不登校児などをサポートすることもサポート南野川がこれに近い。 ●老人のいのちの愛とこども文化センターが併設されていないところの方か世代間交流ができていないという話もある(菅生こぶん)	△	○		
	20	生涯学習	大村	定年後の生きがい探し	①ボスト川崎郡民②回塊世代の増加③シニア世代の活性化	①生涯学習の充実②ボランティア活動への参加③高齢者大学の創設④シニアよる相談の利用促進	●有 【市民館・企画課】 地域活動入門編・実践編と毎年講座を開催している。生涯学習財団関係でかわさき市民アカデミーがある。 【地域振興課】 ・花とみどりの事業で花苗支援イベントにより各団体において苗販売を行っているところもある 【課】減量推進課 ・ポイ捨て、過剰の実績は無し。路上喫煙とともにキャンペーン 【企画課】安河内さんに相談マンションについて。 一定規模以上の建築や開発行為については法律または市が定める条例で公園緑地の設置や敷地内緑化を行うことになっている。	○	◎		
	21	自然	黒沢 岡 平井	花と緑 (ポイ捨て)	花とみどりのまちづくり、四季折々気持ちの良い散歩道づくり。緑化活動団体を集めイベントを開催。マンションにも緑地の確保ができるような対策。	●花・鉢物等の配布 ●公共の場にごみを捨てないことが重要 ●区民にその旨を絶えず広報する ・「緑化週間」、「地域での花祭り」 区民が捨て、過剰の実績は無し。路上喫煙とともにキャンペーン 【企画課】安河内さんに相談マンションについて。 一定規模以上の建築や開発行為については法律または市が定める条例で公園緑地の設置や敷地内緑化を行うことになっている。	△	◎			
	26	農業	岡 大槻	農産物地産地消の推進	宮前区まちづくり協議会で「農産物直売所マップ」が作られた。まちづくり協議会と連動して地産地消を強力に推進出来ないものか。目的は、地域の住民に①区内にも元気な農家があることの紹介②地産地消を勧めることで地域住民と農業従事者のWinWinの関係を構築する。最終目的は、区内の住民に宮前区は生活しやすいor暮らしやすいまちであることのPRや認知度アップをはかること。野菜類高騰の折、住民、生産者双方にメリットが期待出来るものと考えます。	●年2回(春・秋)に区内生産者一堂に集って待ち受け、展示販売会(収穫祭)を実施。 ●出展生産者ブースを設け、自作の生産物を展示販売。 ●農産物直売所マップの配布。家庭菜園の作り方講習。採れた野菜での料理教室等々。 ●展示会の場所は北部市場、JAセレンサ川崎、宮前区役所広場、宮崎台公園etc・・・	【地域振興課】 ●直売所マップ提示 ・Aが向丘地区・宮前地区でそれぞれ開催している。年に1回市とAとで展示販売会。昨年は宮前。 ・教室は農業振興課の市民農園 【宮前市民館】 ・野菜の料理はC級グルメ	△	◎		
	27	産業	宮崎 大槻 佐々木	●起業家塾 ●大学連携 ●地場産業活性化	地域経済の繁栄は産業の振興に実践することと云われている。多様かつ発展性に富んだベンチャー企業や、将来を嘱望される多岐な中小企業の出現を願っている。将来の人口減に対応するためにも、地場産業の発展により働ける場所をつくることと求められる。中堅企業の活性化。	●小学校、中学校における課外活動の一環として区内在住の企業家OB等による起業家塾の実現が望まれる ●宮前区の大学や近郊大学と中堅企業を連携させ、イノベーションをはかる ●サービス等、特に小さな規模でも成り立つような産業をつくることにより、活性化をはかる。	【商業観光課】 対象は小・中・高校ではないが、商入アパユニフォームなどの講座は開催している。空き店舗活用支援なども	△	○		
	29	魅力	宮崎	観光大使、親善大使の組織化の提案	宮前区の特徴、存在などを地球規模にて発信するために、宮前区とゆかりのある県外、海外在住者を組織化して生活の中での宮前区のPR役を担う。年に数回頻度、レポート提出も行う。この得られた情報をどのように活用するかなども検討したい。	【地域振興課?観光協会】 少し色は違つが、30周年関係でゆかりのある有名人とのコネクションはできつつある。	△	○			
	v3. アンケート結果 22										

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要現性 緊急性	備考	
一体化： 交通	10	交通	直本 藤田 山下	交通不便地域の対応	交通網の整備あるいは交通不便な地域に住んでい る方の足の確保。公共施設への足が不便。(初 山・有馬・五所塚など) 田園都市線・東名高速で 東西分断。区内一体感に問題あり。	近隣相互の協力、地域支援。バス・タク シーなどの乗り物の整備。コミュニティバ スの導入。公共施設へのバス路線。都市計 画道路未整備部分の整備促進		○	○		
	4	防災 (工コ?福 社?)	黒沢	防災の啓発	地震等災害に備える。避難路・場所の確認。区民 各自3日分の水・食糧等を備蓄する。	ヘルメット・ライト・ラジオ等の用意。 ・防災フェアの開催、会場に行く足の確 保。市バスの乗り継ぎがでないか?	●有 【危機管理担当】 各家庭の備蓄については防災 ユース等で啓発。フェアは今年か ら土曜開催(3月9日)にすること で啓発効果・層を厚くする。防災推 進員現在161名	◎	○		
	28	魅力	黒沢	友好都市との 交流	例年通り佐久市との交流を続ける	より多くの参加者が増える様努力する。	【地域振興課】 区民祭りでの物産招致、りんご オーナー普及やアワ「さくらんぼ」夏 の交流キャンプ、27名(定員40)	△	○		
	30	魅力	佐々木	新住民に対す る地域の広報	特に「宮前都民」と呼ばれる、普段は宮前区書で 仕事や活動をしている新住民に、地元に住む人 のがあるのか知ってもらい、ひいては地域への愛 着の醸成と定住化を図る。	例えば「宮前マラソン」等の市民マラソン を行い、順位を競うのではなく、宮前区内 で知ってほしい場所などを通過ポイントと して設置し、同時にその場所の広報などを 行う。	【地域振興課】 8月小学生向けに区内の名所を まわるスタンプラリーを実施。	○	○		
	32	区役所サービ ス	黒沢	区役所ホーム ページの充実	広報誌だけでは足りないので、インターネットに よる情報発信を充実させる必要がある。	・フェイスブックの利用 ・掲載情報の充実	【企画課】 10月に区HP一新。 【市民館】 アプリに15台PCが残り、無料の 教室を実施している。市民館には win98が10台あり、教室開催も可 能。	○	◎		
	33	区役所サービ ス	平井	多すぎず回覧 物	多すぎず、情報の統一化	ト利用者を増やすため)	【企画課】 一括配送	◎	○		
	1	防犯	平井	子どもの安全 確保。夜間の 防犯の矛盾点	見守りのパトロールがあるが、子どもたちは警戒 しすぎて地域での気軽な挨拶ができない。学校が あまりにも閉鎖されている面もある。	病気・乗・連絡先等の覚書を冷蔵庫に。共 通のルールをつくる	現在所管なし 東宮前大田区で連携している旨は 把握(高齢者支援課)		○		
	12	地域福祉	大槻	救急搬送時の 諸連絡	一人暮らしの老人	地域でのイベントを考える、または集まれ る場を設立し、定期的に開く。町内会を中 心に老人会・社会福祉協議会・民生委員等 が連携し行政と一体になって見守りの組織 作りに取り組んだらどうか。	●有 【地域保健福祉・企画】 23年度から見守り事業を実施。高 齢化が進む公営住宅2箇所を主 ル地区として住民団士の顔の見える 関係づくりを進め、地域主体の 見守り活動や居場所づくりにつなげる ための取組を町内会・老人会・民 生委員等と連携し実施している。25 年度はモデル地区を3地区に拡 大し見守り事例を積極的に紹介し、 事業を推進していく予定。		◎	○	
	13	地域福祉	太田 福田	孤独死・孤立 死問題	宮前区は人の入れ替わりの早いところのため、お 互いに交流のないまま経過している。隣近所の交 流のある地域を目指したい。地域の絆をお互いに 自覚するように。						
	17	子育て	田浪	子育て親の地 域意識醸成	宮前区は子育てグループが多く若いお母さん達が 積極的に地域活動に参加してくれている。しか し、こどもの手が離れてくると地域から遠ざかっ てしまう人も多い。	子育て時期に仲間作りだけでなく、地域で 自分自身を生かそうという意識を持つても らえるような講座・講習会を開催するなど 考えられる。	●子ども支援室 【子ども支援室】 子育て以外の地域活動への声か けは無いが、子育て事業の担 い手として活動してもらえない かかかっている。地域に居ない要 因として働きに出ているというの も考えられる。	△	◎		

一体化：情報

宮前区一体化

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要現性 要性	備考
	24	工口	福田	廃棄物の減量化	普通ごみについて一般住民の関心が無さ過ぎるよ うな気がする。減量化についてまちぐるみで取り 組んだらどうか。	一般住民はごみは無料で捨てられると思っ ている。廃棄物には処理費用に相当な税金 が使われていることや分別収集のことをP Rし、啓蒙してはどうか	●有 【環】減量推進課 ふれあい出張講座(町内会等の希 望により)、出前ごみスクール(小 学4年)、学校への副読本提供(小 学4年)、等で啓発活動。	○	○	
	34	地域コミュニティ	大槻	地域サービスのネットによる検索	宮前区は転入者が多いので各種のサービスを容易 に見つけ出せるように。ボランティアの人々も登 録してもらおう。	公的サービス以外のボランティア的な安易 なサービスをネットで見つけ出すこと 作り。	【企画課?】市民活動的に地域振興 市民活動団体の紹介は「みやまえ ぼたろり」や「まちづくり協議会」 のHPで。経団連では公園緑地協 会がボランティアスタッフ登録の制 度もある。	○	○	
	35	地域コミュニティ	藤田	みんなが参加できるお祭り	みんなが参加できる祭りが少ない。(区民祭・ふ れあいフェスタ)参加のみでなく、手伝いできる 体制をつくる。まちづくりへ積極的に手伝いし ている人がまだ少ない。	必ずしも大きな祭りでなくてもよい。小さ な祭りの積み重ね(例:盆踊り)区内での 共通意識が持てるもの。ウォーキング大会 なども考えられる。		○	○	
	36	地域コミュニティ	田浪	世代間交流	世代間交流する機会が少ない世代を交流することで新 たな発見があったり、地域の見方が変わったりす ることがある。そんな機会を増やしていきたい。	既にうえるかむクラスで民生委員さんと子 育て中のお母さん達との交流など、気軽に 交流できるようなネットワーク作り。ボラ ンティアグループなど特定の目的を持った 団体を經由して交流を深めることもできな いか。	【子ども支援室】 習生ことも文化センターの例など。 水沢森人の会やわかわはあもなど をそれぞれの団体レベルでは交流が ある。	△	○	
	37	地域コミュニティ	田浪	「地域」意識の向上…3~40代	時間が無くもつとも生活に追われる30~40歳代 の人たちに地域の大切さを意識してもらいたい	「楽しい」「お得な」「楽できる」などを キーワードに地域に参加するきっかけづく りをする。商店街とのタイアップ企画な ど。	【企画課】 地域参加をうながす⇒ 情報サポーターズの冊子?	△	○	
	38	地域コミュニティ	平井 山下 直本	地域の町内会。子ども会の加入率の減少	転入、転出が多く、また、一人暮らし世帯も増え ている。地域で、お互い助け合いのできる触れ合 いのあるまちづくり。子どもたちに、良いふるさ とづくり。町内会、子ども会の魅力ある活動の工 夫と情報交換。新住民の地域に対する意識が低 い。	・町内会、自治会の統一の指針を作成す る。好事例を紹介する。防災対策を前面に 出す。(今回の委員は自治会関係者が多 い)	【地域振興課】 区の加入率65%。市は65%。転 入者向けに訪問をしている会もあ る。毛連協会に赴き、住宅販売の 際に町会加入もセットで入れるよう 仕組をつくらせている。宮前地区は今 年記念誌を発行する⇒PR。多摩 区ではのまじややホスターを製作し 加入促進のPR。	◎	○	
その他	2	防犯	平井	駅前には交番を	宮崎台駅前交番がない。防犯安全確保のための、 交番をふやす。					解決策の提案が課へ の要望にとどまるもの
その他	3	防災 (工口?福 社?)	大槻	災害に強い地域の実現	電力不足対応。災害時の病院・菓の対応。	①太陽光発電パナソニックを公共施設・森林・川 岸等に設置⇒売電②病院・薬局データを電 子化し、クラウド化③災害時の緊急物流対 応	●一部有 【総務課・市民館】 ①区役所・アトリオにはパナソニック設置 済 【所管なし】 ② ③計画作成中			①順次実施中 ②民間事業者が医療 機関向け監査中 ③防災計画作成中
その他	5	防災 (工口?福 社?)	山下	防災の指針作成	宮前区での防災の特徴。津波なし、溢水、木密地 域少ない。したがって、各家庭での対応、備蓄倉 庫、帰宅困難者などが主眼	区としての防災指針。または対策立案。	●有 【危機管理担当】 現在作成中			現在、区の地域防災計 画を見直している

宮前区一体化 続き

分野	番号	ジャンル	提案者	課題	課題の概要	解決策・解決への取組	類似事業の有無 現在までの区などの取組状況概要	優先度	緊急性・必要性	備考
その他	6	住環境	芒崎	トンネルの清掃	通学路でもある榎ヶ谷の尻手黒川道路につながるトンネル内がはとの糞等で汚れが目立ち、不衛生。安心して気持ちよく通れるように。	地域住民の協力。どのように清掃を行うか、清掃用具等にかかる費用はどのようにするか。相談をしながら実行できれば。	●有 【元機管理担当】 (H19年)第2種ヶ谷トンネルアート製作。照明設備の増設(H20年)第3種ヶ谷トンネルアート製作(H21年以降)毎年補修。鳩はJRとの調整も必要			毎年10万程、トンネル補修費用が計上されている
その他	8	住環境	本郷	ラブホテル建設	川崎 I C おりて清水台方面に向かう処、旧道路公園事務所横の空き地にラブホテル建設のうわさあり	うわさを確認して本当なら阻止の動きにつなげたい				現時点では建設の可能性が低いことがわかった
その他	9	交通	佐藤	危険道路。通学児童の安全確保。	榎原小学校児童の登校の場合 道幅：4m（側溝55cm含む） 距離：115m（車道・歩道の区別なし） 時間常交通量：児童55名、自動車40台、バイク10数台	3名にて見張りをやっているが、どう指導すれば安全に通字できるか。	●有 【元機管理担当】 上下線に啓発看板を設置 【道路公園センター・警察】 目立つ白線を敷設。注意喚起			当該箇所のみは課題としては所管課が対応中
その他	22	自然	本郷	平瀬川の水質	地下水路を通じて月に3回ほど汚水が流入している。発生を追及し、やめさせたい。	地下水路の要所にのぞき窓を設け、市民が確認できるようにしてほしい。	【遺構環境管理課】 近隣住民や事業所に啓発リーフレットを配布。「汚水等があれば相談ください」、という連絡の案内もやっている。			関係局への要望にとどまる
その他	23	公園	白井	土橋7丁目公園トイレについて	公園にトイレが無いということで不便を感じる人が多い。老人会主催のバスも発着するので、ぜひとの声があります。					関係局への要望にとどまる
その他	25	農業	大槻	農家の育成	・分散農地の効率化	①分散農地にセンサーを設置し、環境を集中管理して効率化をはかる				関係局・機関への要望にとどまる
その他	31	魅力	山下	「ハコモノ」または「競技場」の建設	川崎は「おんがくのまち」と言いながら宮前区内にはしかるべき建造物が無い。また、大会を開催できるような競技場が無い。	適当な用地の発掘・確保が必要				要望にとどまる
その他	39		平井	1期2期3期に行った提言の、見守りと、検討	せっかく3期にわたって色々提言しているのに、それを振り返ってみるのが大切だと思います。3期に提言してた情報サポーター、坂道のことも続けていきたい。			○	◎	区長会議での取り扱いが他とは異なる